

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.1 6

開催地：五木村頭地地区

平成 19 年 8 月 3 日（金）、五木村頭地地区（会場：五木村伝統文化伝承館）において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

同報告会には、約 40 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

村内	43 名
村外	0 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
【河川整備基本方針の説明について】 計画高水流量 4, 0 0 0 m³/s は、小委員会の委員の方は、ほとんどが賛成だったのか。	人吉地点の計画高水流量 4, 0 0 0 m³/s については、小委員会及び河川分科会として妥当であるとの結論に至っています。 なお、分科会においては、潮谷知事から「基本方針の内容について県民の理解が得られるか疑問であり地元を代表する知事として了承しがたい」「基本方針の内容及び審議経緯について、県民への説明責任を果たしてほしい」との意見がありました。
五木村では、過去に川辺川ダムの基本計画に対する賛成、反対で村が二つに分かれて対立した。その基本計画と今回の基本方針とはどう違うのか。	ダムの基本計画は、特定多目的ダム法に基づくもので、具体的なダム計画を定めたものです。 基本方針は、河川法に基づき、長期的な河川整備の目標等の基本的な方針について定めたものです。
基本方針では川辺川ダムがどうなるかは、わからないということか。	基本方針は、長期的な河川整備の目標等の基本的な方針について定めたものです。 ダムの整備などの具体の治水対策については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくことになります。
基本方針では川辺川ダムがはっきりしないということを、住民に対し説明の初めに伝えておくべき。	基本方針は、長期的な河川整備の目標等の基本的な方針について定めたものであり、ダムの整備などの具体の治水対策については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。 川辺川ダム建設事業との関係において解りづらい面があるかと思しますので、今後とも国として説明責任を果たしてまいりたいと考えています。
今回の話は下流に対する説明である。五木村に対する説明として考えて欲しい。	基本方針の内容及び審議経過等について、地域の方々にご報告するために報告会を開催したところです。 五木村の方々にとって最大の関心事にはならないかもしれませんが、球磨川の長期的な河川整備の目標等の基本的な方針について理解が深まればと考えています。
五木村には、基本方針の説明は必要ない。	基本方針の内容及び審議経過等について、地域の方々にご報告するために報告会を開催したところです。 五木村の方々にとって最大の関心事にはならないかもしれま

	せんが、球磨川の長期的な河川整備の目標等の基本的な方針について理解が深まればと考えています。
【球磨川の治水対策について】 ・五木村は熊本県民、球磨川流域の皆さんの生命財産を守るということで、川辺川ダムに賛成した。	・苦渋の選択をされた五木村の方々には、ご心配ご迷惑をおかけしており大変申し訳なく思っております。 国としては、球磨川の治水対策上必要な施設であると考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。 川辺川ダムについては、今後、河川整備計画を策定する際に、取り扱いについて検討を行っていきます。
・川辺川ダムは利水関係も発電関係も外れて、あとは治水だけになっている。国土交通省は勇気を持ってどんどんつくっていくこと。	・苦渋の選択をされた五木村の方々には、ご心配ご迷惑をおかけしており大変申し訳なく思っております。 国としては、球磨川の治水対策上必要な施設であると考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。 川辺川ダムについては、今後、河川整備計画を策定する際に、取り扱いについて検討を行っていきます。
【その他】 ・五木村はダムを前提として、移転し犠牲になっている。そして人口が激減している。いろんな面で計り知れない損害を受けている。	・苦渋の選択をなされた五木村の方々にはいろいろとご心配ご迷惑をおかけしており、大変申し訳ありません。 川辺川ダムについては、今後、河川整備計画を策定する際に、取り扱いを検討していくこととなりますので、できるだけ早く皆様にご説明できるよう努力していきたいと考えています。
・五木村には、残っている事業がたくさんある。そういう説明をしてもらいたい。	・今回の報告会は、河川整備基本方針の内容等について地域の方にご報告するために開催させていただいておりますので、ご理解をいただければと思います。ご指摘の件につきましては、今後とも丁寧に説明してまいります。
・特に最近では、ダム反対派の声が相当大きくなってきている。	・国土交通省としては、引き続き、球磨川の治水対策について、流域住民に対し説明責任を果たしてまいりたいと考えています。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。